



# 特定非営利活動法人 女性技術士の会

## ニュースレターvol.9

本ニュースレターは、特定非営利活動法人女性技術士の会会員のみなさまへ、本会の活動内容を中心にお知らせいたします。

第9号では、2011年8月～10月の活動内容、会員からの発信、リレーエッセイ、部会報告、今後の活動予定などをお届けします。

活動報告として、3年に1度のICWES、おもしろいまちづくりシンポジウム、日韓女性技術士交流会など、大きなイベントの報告もあります。どうぞ、お楽しみください。

CONTENT		
<b>活動内容</b>		1ページ
2011/07/19～22	ICWES15 参加報告	1ページ
2011/08/25	平成23年度全国高専教育フォーラムワークショップ	3ページ
2011/09/17	第11回技術サロン（WPETF活動への協力）	3ページ
2011/10/01	おもしろいまちづくりシンポジウム第4弾 - リスク回避の生活術を考えよう -	4ページ
2011/10/13	第5回日韓女性技術士交流会	6ページ
<b>会員からの発信</b>		6ページ
市岡恵利子さん	理系女子	6ページ
<b>リレーエッセイ</b>		7ページ
石田佳子さん	秋の夜長に... 時を考えて	7ページ
<b>県立図書館の蔵書になった！！冊子「行動する女性技術士たち」</b>		8ページ
<b>運営報告</b>		9ページ
<b>今後の活動予定</b>		9ページ
2011/11/19～20	サイエンスアゴラ 2011	9ページ
2011/12/10	第12回技術サロン（WPETF活動への協力）	9ページ
<b>技術士をめざして</b>		10ページ
永谷すみれさん	～connecting the dotsのほんとの意味～	10ページ

### 活動内容（2011/8～2011/10）

- ICWES15 参加報告
- ◆ 開催日：2011年7月19日（火）～22日（金）
- ◆ 場所：オーストラリア アデレード コンベンションセンター
- ◆ 参加者：岩熊、氷上、石田、山本、井本、千木良、鈴木（千）、木村（了）

◆ 概要： ICWES : International Conference of Women Engineers and Scientists

1 . ポスターセッション：“ RECENT TREND OF JAPANESE FEMALE PROFESSIONAL ENGINEERS ”

日本の女性技術者の実態と当会の活動を紹介した。全体的に今回の ICWES はポスター展示が少ない印象があった。ただし、日本からは当会・INWES-J、( 公 社 ) 日本技術士会、JWEF ( 女性技術者フォーラム )、個人が参加し日本の女性技術者の積極的な姿勢が窺えた。展示はメインホールであったためティタイムやランチタイムに多くの人が見に来てくれ、一時は説明役が足りないほどであった。



2 . ワークショップ ( WS )：“ Women Professional Engineers at Work

- よその国の労働事情はどうなっているか聞いてみましょう。 - ”

・ パネリスト

- ・ 田中幸子 ( 日本 ) 株式会社 INO 代表
- ・ Sue Bird ( イギリス ) Bird Acoustics 代表 前 INWES 代表
- ・ 井本郁子 ( 日本 ) NPO the Geocological Conservation Network
- ・ Alison McKechnie ( オーストラリア ) Sinclair Knight Merz. 勤務
- ・ Park, Hye-Young ( 韓国 ) BIS-WIST Executive Officer

・ 司会：山本、菅原

各国から働く女性の代表を招き、各国の労働環境の現状を話し合った。当会初めての WS 参加であった。内容はこれまで大学関係者が主体であった ICWES に対して、民間企業に勤める世界の女性達の実態を話し合うと言う多少改革的な意味も含め「よその国の労働事情はどうなっているか」という内容で WS を開催した。



各パネリストが 5 分ずつの自己紹介をした後、参加者に予め配布しておいた質問用紙に「質問したいパネリストの名前と質問」を記入してもらい、各パネリストがその質問に答えた。当初は質問ゼロを危惧していたが、予想外の参加者数と予想外の質問の多さに全部の質問に答えきれない状態であった。



3 . 日本の男女共同参画基本計画の紹介と INWES Japan の活動報告 ( 岩熊 )

本会議の前 ( 19 日 ) に、INWES Asia and Pacific Nation Network Meeting ( 韓国女性科学者技術者協会主催 ) が行なわれ、Mongolia、Papua New Guinea などの発展途上国からも参加があった。「2010 Annual Activity of INWES-Japan」にて男女共同参画基本計画の紹介と女子理系選択支援の継続的な活動の報告を行なった。

◆ 参加後記 ( 木村記 )：

ポスター展示は企画部が率先して作成してくれたので非常に助かりました。それでも作成途中で東日本大震災が起こり、慌てて内容を見直し、各国の援助に対してのお礼の言葉を差し込んだりと、メンバーには苦勞を掛けてしまいました。

WSは当会にとって初めての経験なので試行錯誤・大あわて・脂汗の連続。WS合否結果通知の見逃しに始まり、通告無しの時間変更、それによって何回も帰国便を変更した田中さん、司会者のやむを得ない不参加で慌ててJWEF菅原さんに代役をお願い、外国人パネリストの何ともアバウトな対応・・・、結局韓国パネリストは現地で直接お願いしました(詳細は当会ホームページをご覧ください)。



ポスターは2つ星( )の「良い出来であった」という評価を頂き、WSは予想外の大盛況。それもこれも実に見事な当会員の協力体制と、周りの方々のフォローのお陰でやり遂げることができました。

最後に・・・WSは初めてのことであり、とても大変でした。様々な意見が飛び出しましたが、どの国の女性も結婚・子育てが仕事を続けるうえでのネックになっていることが改めて分かりました。この結果をベースに次回のICWES16(ロサンゼルスで開催)ではさらに話題を深めたWSを開催したいと思います。

#### ■ 平成23年度全国高専教育フォーラムワークショップ

◆ 開催日：2011年8月25日(木)

◆ 場 所：鹿児島大学

◆ 活動形態：要請参加

◆ 主 催：独立行政法人 国立高等専門学校機構

◆ 参加者：高専教諭ほか約150名、岩熊(司会、総括)、原田(講師)

◆ 経 緯：当会理事長の岩熊が理事を勤める国立高等専門学校機構の全国大会において、女子学生の入学率向上を目的とする活動の一環で講演を行った。

◆ 目 的：高専教育の質を維持・向上していくためには、意欲を持った質の高い入学者を確保することが重要である。そのため、女子学生の入学志願者増加を図り、入学者を確保するとともにその質を担保することが重要である。質の高い入学者を確保するためには、魅力ある高専教育や卒業後の就職先を確保・開拓し、提示していかねばならない。本ワークショップでは、以下の3つの講演を行い、それにより高専での質の高い女子入学者の確保・女性技術者の育成に向けた取組の推進を図る。

◆ ワークショップの概要：

1. 呉高専における女子入学者確保や就職先の確保に関する高専での取組事例や現状の問題点についての講演
2. 佐世保高専における女子入学者確保や就職先の確保に向けた高専での取組事例や現状の問題点についての講演
3. 女性技術者のニーズや企業における女性技術者就労支援等の現状についての講演(原田担当)

#### ■ 第11回技術サロン(WPETF活動への協力)

◆ 日 時：2011年9月17日(土)10:00~12:00

◆ 場 所：葦手第二ビル5階A会議室

◆ 活動形態：協力

◆ 主 催：公益社団法人日本技術士会 男女共同参画推進委員会

- ◆ 参加者：プロジェクト側 青木、石田、岩熊、笹尾、廣瀬、千木良、木下、中野（男女共同参画推進委員会）

ゲスト側 文部科学省 基盤政策課長 板倉 周一郎

一般参加者 女子学生 9名

- ◆ 経緯：WPETF の主な活動目的の一つである女性技術者のキャリア形成支援事業の一環として、JABEE 課程と技術士制度の説明及び先輩女性技術士との懇談を企画したもの。2008 年 11 月に初回を実施し、同企画で第 11 回目。今回から、（公社）日本技術士会男女共同参画推進委員会主催で実施することとなった。



- ◆ 目的：技術者を目指す女子学生が、卒業後の技術者としての自分の姿を思い描き、学校での勉学をもとに、充実したキャリアを積んでいくために、現役の女性技術士と意見交換をする場を提供すること。なお、NPO 法人賛助会員の支援により、NPO の災害支復興援事業の一環として、福島県的女子学生 2 名を招待した。



- ◆ 概要：

1. 『技術士』資格に関する説明（笹尾）

技術士とは何か、JABEE 課程と技術士制度との関係等に関して、基本的な事項をわかりやすく説明した。また、女性技術士の状況（登録人数、近年の合格者数）をデータで示した。

2. フリーディスカッション

アイスブレイク手法等を用いて、主催者・参加者ともに打ち解けたあと、参加者各自の悩み（登録のための「指導技術者」探しなど）、資料として準備したリーフレット等を題材に、技術者としての今までの経験や、学生として今後キャリアを積んでいく上で疑問に思っていること等について意見交換を行った。今回は博士課程の学生も参加し、参加者の幅が広がってきた。

- おもしろいまちづくりシンポジウム第 4 弾 - リスク回避の生活術を考えよう -

- ◆ 日時：2011 年 10 月 1 日（土）

13：00～16：50

- ◆ 場所：コトブキ DI センター 7 階

- ◆ 活動形態：主催

- ◆ 参加者：青木、石田、犬走、岩熊、角田、喜多、木村（弘）木村（了）、酒井、嶋田、鈴木（広）関矢、藤井、宮地、吉川、その他 1 名



技術報告 1 (防災計画の現状) 木村氏

ゲストスピーカー 小島久子（ライフ計画事務所） 藪本浩次（株式会社コトブキ）

- ◆ 経緯：まちづくりシンポジウムの第 4 回目。3 月 11 日の震災を受け、首都直下型地震に備えるために、生活の中でできることを考えるシンポジウムを企画した。

◆ 目的:「明日くる」とも言われる首都直下型地震。東日本大震災を契機に、まちづくりにおける防災施設の充実やあり方の見直しが図られつつある。また民間による様々な防災グッズの開発、一般市民としての生活の見直しが始まっている。防災のためのまちづくりに係わる3人のスピーカーに話を伺い、その後ワークショップ形式で生活者として準備できることを、事前のアンケートに沿いながらグループ別討論を行った。また、生活のスリム化と震災復興のための活動基金を目的としたバザーも同時開催した。

◆ 概要:

1. 挨拶 岩熊まき

2. 話題提供

渡辺弘子-仙台からの便り-代読酒井一江

首都直下型地震について 宮地奈保子

3. 技術報告 発表各 15分

防災計画の現状(木村了)

広域避難地における防災計画は、現実と乖離している部分があるのでは?

災害時の帰宅困難者と防災公園(小島久子)

3.11の帰宅状況報告と、災害時の安全な帰宅方法を準備提案

災害時のための防災ファニチャーとサイン(藪本浩次)

防災公園における、様々な防災ファニチャーの使い方、ハザードマップのサイン化の紹介

藪本様が突然ご逝去されました(10/27)。驚きと共に、ご支援して下さった方を失いとも残念です。心よりお悔やみ申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

4. ワークショップ 各班6名、3班に分かれて約1時間討論し、班毎に各10分程度の発表を行った。各班の発表内容は以下のとおり。

- ・震災後に行なった準備は、自宅及び職場の防災準備、家族との連絡方法の確認、生活のスリム化
- ・技術者としてやるべきことは、高齢者、子供、外国人などの災害弱者に対するソフトの開発、アナログツールの再確認など
- ・生活者として準備できることについて
- ・「命をつなぐもの」の他に「気持ちを繋ぐ」ものを各自で考えておくことも大切。

また、参加者から被災地における汚水浄化についての提案の紹介があった。

ここで話題になった内容やアドバイスを、リーフレットにし、配布することとした。

本シンポジウムは、今回も(株)コトブキ様のご厚意により、素晴らしい会場をお借り



技術報告2(災害時の帰宅困難者と防災公園)小島氏



技術報告3(災害時のための防災ファニチャーとサイン)藪本氏



ワークショップ班発表(2班)

し開催することができましたことに感謝いたします。

■ 第5回日韓女性技術士交流会

◆ 日 時：2011年10月13日（木）15:00～20:00

◆ 場 所：韓国大邱広域市 大邱展示コンベンションセンター（EXCO）

◆ 主催団体：韓国技術士会女性委員会 特定非営利団体女性技術士の会

◆ 参加者：日本側 廣瀬・岩熊・石田・中西・千木良・磯打・鈴木（千）  
韓国側 韓国女性技術士 20名

◆ 経 緯：5年前より日韓技術士会議のプレイベントとして女性技術士シンポジウムを開催している。

◆ 目 的：日韓両国の女性技術士の情報交換・スキル向上・親睦

◆ 概 要：

・両国代表者の挨拶と参加者紹介（ともに相手国の言葉で挨拶）

・韓国側発表は活動報告を兼ねて、「脆弱階層を対象にした施設点検および安全指導」について（李美蘭委員長）

・日本側活動報告（岩熊）およびポスター展示

・日本側発表「災害に対する地域継続力を支える女性技術士のアウトリーチ - 東日本大震災の教訓をふまえて -」（磯打）

・後半は衣類部門技術士の指導による韓服（チマチョゴリ）試着、題して「朝鮮の美人の実感」

・シンポジウム後、近くに場所を移動して韓定食による食事会



## 会員からの発信

■ 市岡恵利子さん（建設部門） 「理系女子」  
みなさん、はじめまして。

建設の技術職として長野県に奉職(公務員用語ですねー)しております市岡恵利子と申します。

執筆の依頼をいただき、皆様にわざわざお話しできるようなことはありませんが、自己紹介でよろしいですよというお言葉をいただいたので私自身のことについて書かせていただきます。



市岡恵利子さん

私は、小さい頃から『理系女子』でした。ただ、虫が嫌いで、小学校1年生の時の理科のテストで、昆虫の画が描かれていて名前を答えるという超簡単（昔はこんな程度だったのです）なものでしたが、1つも答えられなかったことをよく覚えています。高校になってからも、やはり生物は苦手で、教科書の中で気持ちが悪くて見られないページは、開かないようにホチキスで留めてしまっていました（ex 蚕のアラタ体の実験状況とか）。当然、その部分の勉強はできません。

高校で物理を勉強してから、ますます『理系』が好きになりました。今考えてみると別に大したことではないのですが、当時は、世の中の事象(運動の形態)が、すべて『式』で表すことができることに、『素晴らしい完成された世界』を感じて、ホントに感動しましたね。

そんなこともあって、工科系に進みました。3年生では実験が多く、遅くまで実験をして徹夜でレポートを書く生活でした。卒業研究は、波のエネルギーについての研究で、毎日毎日、増波水路で波を起こし、水路に置かれた垂直版の先端から発生する渦を写真に撮って解析していました。

大学を卒業したのは昭和59年、まだ『男女雇用機会均等法』が施行されておらず、建設系の学生の大口就職先の「ゼネコン」は、ほぼみんな、採用条件に『大卒男子』となっており、建設系の女子に開かれていた道は、官庁かコンサルタントでした。それで（結果としては、ホントに良かったと思っておりますが）長野県に入職し、いわゆる社会資本整備のお仕事に携わることになりました。

『ものを造る』ことは、本当におもしろいことだと思います。ダム、橋、道路……。建設の行政技術者は、そういった『もの』だけでなく、『地域』・『まち』を造ることに携わることができ、それが、結果としてこの道を選んで本当に良かったと思える所以です。

娘が2人おります。一人は語学の道に進みました。下の娘は、やはり『理系女子』で、獣医さんをめざして現在もう勉強中です。

別の人生を試してみることはできないので、本当にそうなのかはわかりませんが、自分の選んだ道で良かったなーと思える今の生活に感謝しております。

## リレーエッセイ

■ 石田佳子さん（衛生工学部門、建設部門、総合監理技術部門）

「秋の夜長に... 時を考えて」

「時」は不変であるにもかかわらず、人・場合によって長くも短くも感じる。近年、わたしの時間軸は、加速度的に短くなっている。「最近のこと」と思って手帳を確認すると2~3年前であることが珍しくない。

聞いた話で恐縮であるが、80歳の方が小学校1年の孫に、「『去年の今頃何をしていた?』と尋ねたところ、孫の答えは『そんな昔のこと忘れた』。考えてみれば、7歳の孫にとっての1年は生きた年数の1/7（記憶のあるのが4歳くらいからとすると1/3）に相当する。自分に当てはめてみると約11年。そうか、孫にとっての去年の記憶は、自分の11年前の記憶、それは昔だ」と。そう考えれば、過去を振り返ったとき、歳をとるにつれて1年、1ヶ月を短いと思うのも納得できる。

トシのせいにはしたくないのだが、時間感覚の短さとともに、「物忘れ」と「物覚えの悪さ」がひどくなっているのも否めない。これくらい覚えていられる、とメモを怠ると見事に忘れる。簡単な言葉がなかなか頭に入らない。そのため、メモをしっかりとるように心がけているのだが、子供の頃からの悪癖である「ノートを最後まで使わない、ノートの取り方が乱雑(マス目に文字がきれいに収まっていたことがない)」が災いし、なかなか励行できない。このままでは、業務を始め、各所へ迷惑をかけかねないので、強く自戒の毎日である。

もうひとつ認めたくないのが「体力の衰え」。ヨーロッパ、カナダ、アメリカのスキー場を数々経験し、スキー歴も長くなっていたので、10年ほど前主人と、5年で2級、10年で1級と、スキー検定の目標を立て、道具も新しくした。その後「山ごもり」と称して毎年滑りに行くのであるが、午前中まじめに(?)滑ると、午後は疲れが出て急斜面でのコントロールが効かなくなる。1日滑ると翌日は、「今日はパス。温泉にしよう」となる。結果、未だに無級であり、予定では今頃とれていたはずのスキー1級は夢と消えた。



時と戦っても仕方がないので、「あたりまえ」として受け入れるしかないと自分に言い聞かせるしかない。

が、わたしの周りにいらっしゃる諸先輩の皆様、「技術士の資格に定年はない」とばかり、本当に素敵にトシを重ねられている。わたしも、見習ってこれから素敵にトシをとっていく方策を考えたいと思う。

なお、この機会に、事務局からのお願いも... 本法人は、企画、広報、国際、総務、事務局の5部会で構成し、シンポジウムなどイベントの規模に応じプロジェクトとして部会や会員の皆様に参画いただく方式をとっています。現在、各部会へは任意団体の時の幹事の方および別途お願いした方(現在リーダー会)に所属いただいておりますが、今後は正会員、協力会員の方には部会に所属いただき、可能なときにNPO活動にご参加いただきたいと考えております。近々改めてお知らせいたします。どうぞよろしく願いいたします。(写真はシャモニーにて)

## 県立図書館の蔵書になった!! 冊子「行動する女性技術士たち」

科学や、技術、産業に特化した神奈川県立川崎図書館では、2011年9月9日から11月9日の2ヶ月間、「理科女の本棚」のコーナーを設置しています。

このコーナーを企画した科学情報課の高田高史さんにお話を伺いました。「今、歴史の好きな女子を歴女と言ったり、鉄道好きな女子を鉄子と言っていますが、理系に進んでいる女子も多くなっています。これから理系に進もうかと迷っている高校生や就職先を模索する理系の女子大学生の支援を目的に今回はじめて企画しました。





常時 30 冊は並べてあります」とのことでした。また、最近は女性だけでなく男性も立ち寄っているとのことでした。

このコーナーは 3 つのテーマに分かれています。1 つめは「理科女を極めていく本」、ここには「素敵にサイエンス」や「科学する心 日本の女性科学者たち」など先輩理科女の本が並んでいます。2 つめは「理科女さんにお勧めしたい本」では図書館の女性スタッフが選んだ「トイレの科学」や「香料文化誌」など女性が興味を持ちそうな本が揃えています。3 つめのコーナーは「理系女子の本 100 冊」です。ここは講談社 Rikejo プロジェクトが理系を目指す女子中高生に読んで欲しい本 100 冊の中から選んだ本が並んでいます。ここに今回、県立図書館の蔵書となった「行動する女性技術士たち」が誇らしげに立っていました。



## 運営報告

主体	日時	場所	議題
理事会	2011/8/27	ルノアール神田南口駅前 (マイスペース)	シンポジウム、部会運営等
企画部会	2011/09/12	淡窓庵事務所	おもまちシンポ第 4 弾の内容
技術サロンプロジェクト 広報部会	2011/10/20	日本技術士会会議室	技術サロン企画、ニュースレター vol.9、サイエンスアゴラ
理事会	2011/10/22	貸会議室ブラザ 八重洲北口	ICWES15 報告 震災支援事業等

## 今後の活動予定

### サイエンスアゴラ 2011

今年も独立行政法人科学技術振興機構 (JST) 主催のサイエンスアゴラに出展します。会としての出展テーマは「理系の仕事 - 復興の現場でも - 」です。みなさまの参加をお待ちしています。

日時：2011 年 11 月 19 日 (土) ~ 20 日 (日)

場所：科学未来館 (<http://www.scienceagora.org/>)

### 第 12 回技術サロン (WPETF 活動への協力)

日時：2011 年 12 月 10 日 (土) 13:30 ~ 16:00

場所：中央大学駿河台記念館

〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台 3-11-5

対象：技術者を目指す女子学生

内容：「技術士」資格に関する説明、意見交換会

参加費：無料

定員：20 名

申込先：廣瀬由紀 [wpetf@pej-lady.org](mailto:wpetf@pej-lady.org)



## 技術士をめざして

■ 永谷すみれさん 「～connecting the dots のほんとの意味～」(技術士補：森林部門)

このニュースレターを手にとって読んでらっしゃる方って、女性、男性、学生、社会人？これから就職活動をしていこう、またはその最中の方もいらっしゃるのでしょうか？もしあなたが、今何かに悩んでいたり苦しんでいたりとしたら、どんな言葉が聞きたいでしょう。

この記事を書いている約1週間前にスティーブ・ジョブズが亡くなりました。先日、ツイッター上で彼のハーバード大学での演説全文が回ってきたので試しに読んでみました。すると、これが物凄くいいのです。職場の最寄り駅から読み始め、嘘みたいかもしれませんが、読み終わるまで自分がどうやって電車を乗り換えたのか覚えていません。そのくらい集中して読んでいました。



永谷すみれさん

「Connecting the dots」。何度かニュースでお聞きになったかと思いますが、彼がこの言葉に込めたほんとの意味ってご存知ですか？これは単に「人生の点と点はいずれ線になるものだから、今いる“点”を大切に生きよう」、とはちょっと違います。

演説の中で「Connecting the dots」を説明するために、両親に全く愛されない幼少期を過ごしたこと、大学を中退したこと、自身で作った会社を解雇されていたことなどを語っています。

中でも、「人生で最良の選択は大学を中退したことだと思っている」と述べています。「だって、本当に受けたい授業は聴講でも受けられるのだから」と。まさにこの時が、“右倣え”の生き方から、“人と違って自分自身の頭で”考え行動する生き方への転換期だったのでしょうか。

私たちは何かにつまずいたり上手くいかないなあ、という時って、上手くいっている周りの人たちと自分を比較して落ち込んだりしませんか？

ジョブズが「Connecting the dots」に込めた本当の意味って、おそらく、innovative で creative な人生は、きっと最初からゴールなんて見えていないものだし、「得られる結果が最初の段階で見えてなくちゃ、私は努力も勉強も出来ません」なんていう人には大きなチャンスや本当のご縁は巡って来ないってことなんじゃないか、と思います。人生における点と点は、事後的にしか線として認識出来ないほど私たちは愚かである、ということ。

だから、今あなたがいる場所が、もし居心地が悪くて苦しいものであったとしても、その点が次にどの点につながり、今後どう発展していくのかは、今の段階では分り得ないのだから楽しく自由に未来を思い描いて行動しましょうよ。自分で自分を卑下したりせずに。

私は、なぜか造園を専攻し、なぜかインドネシアに留学して、1年の就職浪人時期があって、なぜか今の会社でお世話になっています。これからも心から楽しめる居場所を追求していきたいです。暗闇の中で苦しかった時に、「Connecting the dots」という言葉にもっと早く出会っていたらな、と思ったので書かせていただきました。

ニュースレターについてのご意見・ご感想はこちらまで：[info@pej-lady.org](mailto:info@pej-lady.org)

2011年第3号 通巻第8号 発行責任者：特定非営利活動法人 女性技術士の会 理事長 岩熊まき